

令和2年度第1回八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事録

日 時：令和2年7月21日（火）13：30～15：00

場 所：八幡平市役所多目的ホール棟大ホール

参加者：別紙のとおり

発言者	発言内容
事務局	<p>【開会】</p> <p>委員の皆様今日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます御座います。本日の司会進行を務めさせていただきます。よろしくお願ひします。</p> <p>開会の前に委嘱状の交付を行いたいと思います。今回委員のうち5名が委員となりましたので市長から委嘱状を交付させていただきます。</p> <p>名前を呼びますのでその場でご起立願ひします。</p>
市長 事務局	<p>（市長から順次委嘱状を交付）</p> <p>それではただ今から令和2年度第1回八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開会いたします。開会にあたりまして市長からご挨拶いただきます。</p>
市長	<p>令和2年度の1回目になります、八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議ということでご案内させていただきました。それぞれお忙しい中ご出席いただき心から感謝申し上げるもので御座います。そして日頃から会長を始め、それぞれの立場で八幡平市政にさまざまな意味でご支援ご協力いただいていることに、改めて感謝申し上げるもので御座います。ただいま委嘱状を交付させていただきました。新たに委員として八幡平市のまち・ひと・しごと創生のためにそれぞれの立場で貴重な提言をいただければありがたいなと感じております。このまち・ひと・しごと創生ですが、国の施策によって全国の自治体で取り組んでいるところで御座います。現在2期目の指標と申しますか、第2期に入ってきております。今年の3月ですか第1期が終わると申しますので、第2期の指標等を議論していただくためにこの有識者会議を開催させていただきました。その中で委員の皆様からも指標の在り方について提言をいただいております。それを受けまして7月2日に市のまち・ひと・しごと創生本部会議、幹部職員によって構成されておりますが、本部会議を開催し前回の有識者会議の議論を参考にしながら意見交換をさせていただいた結果として、第2期の指標の改訂ということも今回の有識者会議の中で説明させていただきたいと思っております。本日は議事として2件ご提案申</p>

事務局	<p>上げています。それぞれの立場で闊達な意見交換されることを期待し冒頭の挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございます。続きまして会長よりご挨拶をお願いしたいと思います。</p>
会長	<p>皆さんお久しぶりで御座います。この有識者会議の会長を発足時から務めさせていただいております。今日はソーシャルディスタンスとマスクの着用ということで、喋り難いのでマスクは外させていただいて話をしたいと思います。皆さまも暑いようでしたらマスクを外しても構わないと思いますが、その時はあまり大きな声、唾を出したりとかでは無く、ゆっくりと話していただければと思います。</p> <p>前は2月に会議がありましたけれども、第2期のまち・ひと・しごとの計画、改定案を我々議論するというのでやりました。今回はどちらかというと、26年度に作った27年度からのまち・ひと・しごと第1期の年間の計画の最終年度ということで皆様方にチェックしていただいて、第2期に向けてより良いものを推進していくいろんな施策でなければと思っています。</p> <p>自治体さんが作る総合計画というのが御座います。それからまち・ひと・しごと総合戦略がどう違うのかというのがよく聞かれます。私なりの理解は、総合計画は県で言えば県民計画なんです、行政を進めていく所を将来どのように見せていくのかという所を、行政の各課集めて網羅的に作る、だいたい10年とかいうスパンで作って、前半後半に分けたり3年ごとにローリングしたりという形のものはある訳です。一方でまち・ひと・しごと総合戦略はそうではなくて、私の理解では前回も議論していただきましたけれども、2040年今から20年後八幡平のあるべき姿ってどういうものだろうと。その時に一番キーとなるのが人口ですよねと。将来2040年八幡平市の人口ってどうなるんだろうと、それを厚生労働省の社人研の資料を見ながら八幡平市が独自に出してくれた資料を見ながら皆さんで議論しながら2040年八幡平はこれぐらいの人口になるべきではないか、それは多少希望願望が入っていると。ただ単に機械的に落としていった推計値では無く政策誘導もしながら人口を維持していこうと、そうした時に将来この人口が必要だよねとなった場合に何をやっていくのか、それを5年ごとにローリングしながら足りないものを付加し、または強みをさらに強みにする。ちょっと実績値にいなかったところはなぜいなかったのかという反省を加えて、第2期はさらにバージョンアップし、または場合によっては絞って特化して進めていく計画だろうと思っています。その時大事なのが総合計画と</p>

	<p>一番大きな違いは、総合計画はどちらかと言えば行政がこういうふうに進みますよということをお示しする計画になるわけですがけれども、まち・ひと・しごとの戦略は皆さんと一緒に市民の皆さんと一緒にその計画を自分のものとして市民の方が感じていただいて、ひとりひとり努力する。例えばまち・ひと・しごとの一番大きな問題は、子どもが何人生まれるか、出生数または出生率ということになるわけですがけれども、出生率は行政がいくら頑張ったって、結婚して子どもが生まれる環境があるというひとりひとりの住民の方々の意識付けが無いとそういう形にならないわけです。そういうことを皆で議論しながら、産んでよかったね、育てて良かったねというまちになって、更にはまたまた戻ってきて八幡平のまちの中で活躍する環境はどうしたらいいのかということをお示ししながら、私事として考えていく、そういうものが私はまち・ひと・しごと創生総合戦略だと思っております。そういう面から今回第1期5年間の計画、確かに当初は盛り沢山なものにして高いレベルで目標値を設定し、その結果なかなか達成が難しかった指標も数多くあります。ただそれは単に指標が目標値に達成しなかったからダメだねということでは無く、なぜ達成出来なかったのかということをお示しの方々と私どもの有機者の委員の方々がいろんな形で意見交換しながら、よりよい施策にする為にはどうしたらいいのか、というところをお示ししていただきたいと思います。そのような形で今日は1時間半ほどお時間をいただいておりますけれども、その議論をひとりひとりのものとしてお話ししていただきたいと思います。冒頭に当たっての会長からのお願いの挨拶で御座います。よろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。次に議事に入らせていただきます。ここからは有識者会議設置要綱第6条第1項により会長が議長となりますので小野寺会長さんに進行をお願いしたいと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。それでは市長さんからお話がありました議事が2つ用意されています。まず(1)の第1期のまち・ひと・しごと創生総合戦略令和元年度の指標評価・分析ということで御座います。基本的にはこれ5年間全体のとりまとめということになるかと思っております。それでは事務局の方からご説明申し上げます。</p>
事務局	<p>今年4月からまち・ひと・しごと創生総合戦略の担当になりました。よろしく申し上げます。座って説明させていただきます。</p> <p>皆様の資料の確認ですが、本日の資料は次第の他に資料1から資料6までご用意しております。</p> <p>資料の訂正を始めにさせていただきます。資料2の4頁の合</p>

<p>会長</p>	<p>計特殊出生率の30年実績が1.47となっておりますが、誤りで1.27になります。これに伴い下の分析も削除をお願いします。それから資料4の2頁です。こちら表3合計特殊出生率の30年1.47が1.27となります。訂正をお願いします。</p> <p>(引き続き資料1から4まで説明)</p> <p>ありがとうございます。委員の皆さんからご質問でもご意見でも結構ですのでいただきたいと思います。いかがでしょうか？</p> <p>それでは私の方から。先ほど伸びているもの、達成しなかったものがありますが、大きく2つ気になっているのですが、1つは人口関係、要するに出生率・出生数それから転入者、そういうところがなかなか苦戦しているなど。特に先ほど資料4の1頁の女性と男性を見ていたんですが、平成12年で女性も男性も大体15歳から39歳同じくらいの人口なんですけど、令元年になると男性は2,300人なのに女性はもう2,080人ということで、男性はまあなんとか残っているけれど女性がどんどん出て行くと。これは岩手県全般に言える傾向なんですけど、これをどのように止めていくかっていうことが凄く大事だと思うんですけど、市役所の中ではこの辺りの議論というのはどのようにされて、どういう理解でいらっしゃるのかということをお伺いしたいと思います。</p>
<p>副市長</p>	<p>本年度から副市長に就任いたしました。よろしく申し上げます。</p> <p>第1期の人口ビジョン総合戦略を策定した時に私が担当させていただいておりました。会長さんおっしゃるとおりの状況であります。第1期の人口ビジョン・総合戦略策定した時の平成27年におきましては、この表の資料4の1頁下段のとおり男女とも総人口に占める割合が同数で10%ということで御座いましたので、男女問わず若い人たちの人口流出をいかに止めるかということを検討して17のプロジェクトを推進してきたということなんですけど、この計画策定後にどんどん若い女性の方が著しく減少してきているという現象が生まれてまいりました。県との意見交換会でも話題になりまして、岩手県全体でも八幡平市と同様に若い女性の方々の流出が著しくなっているということ、これはさらに岩手県だけではなくて、全国の地方でも同じような傾向がうかがえるということで、逆に言えば東京圏に若年層の女性が流入している割合が非常に高まっていると。この要因が何かということにつきましては、県とも意見交換しましたけれど、なかなかこれだという原因は分からないのが現状です。女性の進学率の上昇、大学進学者の増や大企業志向とかいろいろなことが言われてきましたが、あくまでも推測の域でありまして、実態としてそれが原因として特定できるものは無いという状況で御座いまし</p>

<p>会長</p>	<p>た。第2期のまち・ひと・しごと創生総合戦略につきましては、このところについて更に分析を進めたうえで対策を講じていきたいということで、プロジェクトにまとめてはおりましたが、なかなか若い女性に限っての有効策というのは現時点ではまだ打ち出せていないのかなというところもあります。皆様のご意見も聞きながら今年度あるいは来年度の見直しによって、事業展開していければと考えているところで御座います。</p> <p>ありがとうございます。第1期の時もこの若い女性をどう留めるかということで、いろんな保育所の充実だったり西根地区における働く世代、小さな子どもを持っている世代が西根地区に住みながら盛岡に通うとかの議論もあったやに思っております。それで私の方で後で皆様にご質問とかいただきますが、掘り絞って議論を深めていきたいと思しますので宜しいでしょうか。せっかくですから今日は地域おこし協力隊の委員がいらっしゃって、前からずっと言われていて八幡平良い所だよねと言いながら、これが八幡平の若い女性の中に伝わってないんだろと思うんですけど、何かご意見ありますでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>2点ほどありまして、まず最初に少し議長の質問とはずれるんですけど、せっかくこの会議に携わっておりますので、総務省のまち・ひと・しごと創生事務局の最新のデータを確認させていただきました。すると、新型コロナウイルスが流行りだした令和2年5月におきまして、首都圏の若者を対象にした調査によりますと、なんと6割ほどの人が地方移住に興味があるというこれまでに無い数値が出ているんですね。こと女性に関しましては、若い女性に限りますと5割ほどしっかりと地方移住を前向きに考えているという傾向がありまして、その中で発信して欲しい情報というのが主に住まいと仕事というデータが出ています。やはり新型コロナウイルスの影響は全国的に出ておりますが、リモートワークの導入や首都圏における新型コロナウイルスの感染者の拡大に伴いまして、今までにないほど地方という価値が見直されていると思うんですね。しかし地方に生まれた女性にとって地方の魅力を理解して欲しいと言われまして、私も北関東の出身ですが、残念ながら出ないと分からないというのが正直ありました。私、八幡平市の他にも山梨県の富士河口湖町に居たことがあるんですけど、そちらの方とお話ししても、1回出た方ほど戻ってきてまちの魅力を感じていらっしゃるという方が多かったです。先ほどのデータにおきまして、男性はとどまっている方が多少女性より多いということでしたけれども、キャリア形成ということに考えますと、男性は例えば一度就職したり家族を作りますと、比較的同</p>

<p>会長 委員</p>	<p>じ都市にとどまる傾向にあると思うんですね。対して女性は仕事を移転することになる可能性もあるし、結婚した方が転勤になることもあるし、あるいは離婚されて地方に戻ることもあるし、比較的年齢の影響による流出を阻む壁が逆に少ないと思うんですね。この数値に関して女性の方が留まる人が少ないというのはむしろ循環が出来ていて、良い傾向というふうに捉える事が出来るのではないかと私は考えます。逆に言いますと出て行った人も多いですが、そこで新型コロナという未曾有の件がありまして、逆に岩手県って良いところだな、と見直した人が今後増えてくる可能性が高いのではないかと考えています。そして、手前味噌ではありますが、私はホームページを担当して情報発信という分野をしておりますので、如何にして地元っていいところだよねっていう気持ちを抱かせるかという、やはり継続的な情報発信。地元どうなっているかなって思った時に、最新の情報で仕事をしている人とか住んでいる人とか家族とか独身とか子どもとかいろいろなパターンが発信されていたら、本当は知ってたけど気付いて無かった地元の魅力に気付いて、今後増加していく可能性があるんじゃないかなと思っていたんですね。流出をとどめるというのも大事な策ですけど、逆に流出というのは自然の流れということで受け止めて、今後来るであろう地元のカムバック、地方の再発見、魅力の再発見に乗るっていうのも1つなんじゃないかと思えます。</p> <p>ありがとうございます。それでは委員お願いします。</p> <p>今年度も宜しくお願いします。今お話があったように、私も魅力を感じたんですけども、私は元々岩手、八幡平…、海外や首都圏でも暮らしたうえで初めて魅力を感じた場所なので、これをどう伝えられるかなってということで今自分は主に自然の中でのガイドをやっているのですが、去年からお話させていただいたとおり、観光で来る方又は地方での移住を希望する方にここでの暮らしとか、出来る事が何かをお伝えするという、よろず相談所のようなことをガイドとしても個人的にもやりたいと思っているんですけども、去年2人30代の男性と女性に移住してきてくれて、あと今年に入って春に、直接のコロナウイルスの影響ではないかもしれませんが、全く縁もゆかりも無いところだったのに八幡平に来る機会があった女性に、ここにアルバイト無いかとか、住まいとか知っている限りの情報と紹介出来る人をお伝えして、1人移住してきた人がいる。彼女は保育士の資格も持ってた方なので、農作業の収穫のお手伝いや、ベビーシッターのようなことを個人的にやるっていうことで、本人も行動力があるし人柄もよく、いろんな形でアルバイトをやりなが</p>
------------------	---

	<p>ら、こういう環境だから出来る、自分のペースで動けるっていうことに魅力を感じて今楽しいと言っています。</p> <p>ただそれを会長の質問にお答えするとすれば、どういった形で、地元出身の女性とか、外に出て行っている女性に伝えられるかと言えば、行政レベルでの発信は必要かもしれないけれど、個人の繋がりとか SNS の発信力がとても凄いので、例えば私の 2 期上の先輩でご夫妻なんですけども、2 人で八幡平ならではの自然とか季節に即した生活を発信されていて、Youtube 映像上の発信で凄く人気がある。今 DIY の生活様式を自分達で作上げたということで、今首都圏でも自分の小屋を庭に作るとか凄い人気あるんですけど、自分のプライベート部分を作るとか。それでとても人気のあるドゥーパという雑誌で DIY のグランプリを受賞されたりとかされているんですね。そういう形で私も取り上げていただく機会もあるんですけど、八幡平何も無いところだと思っていたけど、こんなことやってる人がいるんだという事自体が、自分も戻ってみようかなとか、帰った時に住まいはこんな風に工夫出来るんだとか、人の繋がりがあるんだとかが見えていくことしかないかなと。しかない訳ではないけど、現時点で大きくやれることと、個人レベルの繋がりやれることを同時進行でやるのが一番かなと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。のっけからちょっと難しい質問を送りました。ありがとうございます。委員が仰ったように、いっぺん出ていくことは大事だと思います、それを戻すという仕組みですよ。それを作りきれるかどうかというところで、まだ UI ターンの数が増えて無いところは、まだそこは十分でないというところを工夫する必要があるだろうと感じております。</p> <p>後は、八幡平自然が良いよねって言ってますけども、仰ったように自然の中に住んでいる人の営み、それを上手く発信してそういう中でゆったり暮らせるということが伝えられればもっといいだろうと思います。それ以外にもいろいろいただきましてありがとうございます。</p> <p>ついでとっては失礼なんですけど、新しく委員になった方は八幡平ご出身ですか、地元として過ごしていて先ほど委員から出たようなところとか、先ほど出生率がどうしても低いとか、何か思うところがあればご自由にご発言いただければと思いますがいかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>今年からどうぞよろしく申し上げます。私は八幡平市出身で小さい頃から居るので正直なことを言わせてもらいますと、小さい時から過ごしているという部分からすれば、八幡平市の魅力と言われますと、ちょっと気づき難いかなと。ずっとこのような形で過ごしてきたので、これが普</p>

	<p>通と捉えている部分があります。やはり他県から来た方から魅力を出してもらうところで気づく部分が少しずつあるのかなと思います。出生率に関しては、私もフルタイムで働いています。難しいところではあるんですが、一般論ではありますが環境作りっていうところが大きいのかなと思います。やはり保育所に子どもを預けているんですが、お爺ちゃんお婆ちゃんがいる、頼れるんでしょという見方をされたりするんですが、お爺ちゃんお婆ちゃんがいるにしても、お爺ちゃんお婆ちゃんはそれなりに身体的なこととか仕事されているとか事情がありますので、必ずしも環境が整っている、お爺ちゃんお婆ちゃんがいるからって環境が全て整っているとは思えない、ケースバイケースだと思っているし。今のところ思いつくところはそういう部分かなと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>今委員の発言で気づいたのは、よく首都圏で共働きをやっていると旦那さんがしっかり家事をやってくれる割合が最近特に高くなってますけど、田舎というか八幡平市もそうだと思いますけど、お爺ちゃんお婆ちゃんいるから、旦那さんは家事手伝わなくていいっていう意識がまだ若干あり得るのかなと勝手に推測しております。それがもっと一緒になって子育てをやっていくのであれば、八幡平の外部環境っていいですけど、保育園だとかいろんなものをかなり充実していると思いますので、そういうことが出来れば子育てに優しいまちになっていくのかなって思いました。</p>
<p>委員</p>	<p>今の子育て環境や少子の問題、出て行くような関係、何かご意見ある方がいればぜひお願いしたいと思います。</p> <p>ちょうど話が出た話題で、今年の春から新しく地域おこし居力隊として30代の女性が入っています。彼女も移住促進の活動をされていて、元々八幡平に住みたいって方なんですけど、小学校にあがったばかりの子と2歳ぐらいの子がいるんですが、旦那さんが遠くで働かれていますそうなんですけど、つい昨日相談を受けたんですが、今八幡平市の市立病院が新しくなったところで、病児保育の施設を作れないかということを生懸命考えているようです。都市部でも難しい課題だと思うんですが、委員も仰ってたとおりに、私自身も今3歳半の娘がいるんですが、仕事の途中会議中とか出張中に熱が出たので迎えに来てくださって言われた時どうするか。本人は高熱が出て結構元気だったりするんですね。でも保育園だと37.8℃以上だと預かれない、感染症の心配もありますので。いろんな理由で病院に連れていかなければならない、見なければならぬっていう時に。子どもを預けられる人がいるか、そういう場所があるかっていうのも働きざかり子育て世代の女性がやっぱり働きやすい、子育て</p>

	<p>し易い環境に出来るかっていうのはとても大きいと思います。じゃあ病院に病児保育の施設を作ればいいのかというと、その為の保育士さん、たださえ今保育士さん少なくて難しい状況ですが、特に病児保育に関わる保育士さんの資格は別途特別に必要ならしくて、東京まで出向いて試験を受けなければならないとか。今私が預けている保育園でもそうなんですけど、保育士さん方も小さなお子さんをお持ちで家庭をお持ちな訳ですね。なので何重にも課題があることなんです。今私が考えていることは、新しく協力隊に入られた方は議員さんに働きかけたりしているんですが、市民レベルでの行政で動いてくださいっていうのもそうなんですけど、市民レベルで困っているお母さん達がお互い気付いて繋がりがあってサポート出来る体制を作れないかというのも凄く大事だと思うんですね。ただ、日常に追われて忙しい状態なので、そして子どもの成長に伴ってそういうネットワーク繋がりを作って関わっていけるかどうかも課題ですが。私もずっと関心のある分野だったのですが、今やっていることに加えてそれもやるとなるとちょっと尻込みしている状態なんですけども。例えばそういう取組みを市でもバックアップしていきますとか、今大更に助産師さんがいらっしゃるのですが、自然農とか食に関心が高い方で、そういう意識のある方々、相談したり預け合ったり出来るかって去年から申し上げているんですが、市でもバックアップしますとか、皆さんそういうのやりませんかとか何か出来れば気付いている人たちがもうちょっと繋がりやすくなるのかなと思いました。</p>
<p>会長</p>	<p>どうもありがとう御座いました。これだけで恐らく何時間も必要だと思いますので、一旦人口の問題、特にも子育てとか出生率の問題はちょっと置きまして、それ以外のテーマで気になる点やご意見ご質問ありましたらお願いします。</p> <p>では私の方から問題意識を整理する関係から振りたいと思いますが、農業関係のデータが基本目標である農業生産額、純生産額が出ていないということで、全く評価し難いということで、第2期のまち・ひと・しごとでは、農業生産額、純生産額ではなくて、農業算出額という言葉で入れ替えて基準値平成29年度13億8,000万円か、で目標値令和6年14億円という皆さんのお手元にいつているまち・ひと・しごと第2期計画の15頁に出ているんですが、これに照らした時にフィードバックして27年度からのこういう数値っていうのは出てくるものかをお伺いしたいのですがいかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>残念ながら逆算での算出は不可能で御座います。</p>

会長	それでは第2期の時は大丈夫ということで宜しいですか。
事務局	第2期につきましてはこちらで公表されているものを使うのであれば。
会長	そうではなくて、第2期戦略の中の15頁を見ていただきたいですけども、この上の方に数値目標があって農業算出額を明確に入れているんですけども、これは御課で検討してこの数値にしようとしたのでは無かったのではないのですか。
事務局	すいません、この農業算出額は国で毎年出している数値で、これだとコンスタントに出てくるもので、27年まで遡れます。
会長	27年までありますか。この純生産額は出てないのでNAのままかどうかではなくて、今の数値に置き換えた時に伸びているのかという議論は出来る可能性はあるんですか。
事務局	可能性はあります。
会長	ではここは純生産額は出ていないけども、代替りのもので第2期はこれを入れたので、過去に遡ってみるとこんな感じですよということが分かります、八幡平市は先ほど農業頑張っているよね、ただ数値は無いよねってだけでは無くてもう少し代替の数値として分かるのではないかと思うのでご検討いただきたいと思います。
市長	この数値ですけども農協が毎年実績表出しますよね。自分達の系統の。あれだと出せるんですけど、それ以外にも例えば系列外に、特に畜産関係は養豚とかブロイラーは莫大な算出額があるんですが、それが載ってこない。本当は凄い売り上げを確保しているんですが、そこをどう表現していけばいいのか。
会長	凄い今市長さん大切なことを仰ったんですけど、要するに市政を運営していくにあたってそういう産出額は国単位では無く、何らかの形で掴めるような事はこれから必要になってくるのかなと思いますので、ぜひ農政担当の方でも独自の推計でもいいと思いますし、独自の捕まえ方でもいいと思うので、やはりこれが無いと1次産業がどう伸びているかって全く分からないままに産業戦略、農業戦略を作らなきゃいけないものですから、ぜひ何らかの方法、代替りになるような指標とか推計が出来るかとか、それらも含めてご検討いただきたいと思っております。私だけ喋っていますが、他に何かあれば。
市長	例えばこの数値については農協の生産統計・実績によりますよ、っていう注釈付きで通じますか。
会長	それでもいいと思います。ただ農協がどの程度カバーしているかっていうカバー率が恐らく全国的に下がってきているので、八幡平市のカバー率がどれぐらいなのかっていうのを改めて検討していただいて独自に数

事務局	<p>値を掴んでおくっていうのは大事なことで、今掴めないのでもまず農協でやるんだっていうことであれば、それだけでも指標になると私は思います。</p> <p>すいません、第2期のお話になっているんですけども、計画書の15頁の農業産出額は国の農水省の方で出してる数値なんですけど、同じ計画書の19頁のプロジェクト1の野菜販売額、30年が9億7,200万円というのがあるんですけど、これが正に市長が言った系統の農協の出荷額・販売額になりますので、第2期については農協の販売額も提示出来るし、国からの統計数値も提供出来るという内容になります。</p>
会長	<p>ありがとうございます。ぜひそういう形で何らかの数値を掴んでどう変化しているかっていうのを見ることが凄く大事だと思いますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。</p> <p>すいません第1期から第2期の方へ一部入ってしまいました。ありがとうございます。皆様方からいかがでしょうか。</p>
委員	<p>あんまり丁寧に喋れないんですが、バス利用者の、コミュニティバスの話をすれば、朝の便とか夜の便というのものもあるんですが、パチンコ屋と病院に行ってあげればかなり利用者が増えるかと。あと閉店頃にバス出してあげればパチンコ屋利用だけでも十分出るかと思います。農業の方でほうれん草の販売額のC評価とかありますけども、これCとかのレベルじゃなくてFランクのレベルなんですよね。Cで留めておくのが間違いなんです。ABCしかないじゃなくてFまで作って、ほうれん草これも論外ですからね。この人達ただのものしか興味無くて自分で出資する気が無い人が揃ってるから、こんなデータになってますけど、それ以外の品目であれば普通にAランク付くんですよ。ほうれん草に特化してるからおかしい。あと最初に出てた女性の話、女性がいっぱい出ていく。単純に1回出て行った女性にアンケートを取るのが、若い女性の意見を直接じゃないと分かる人いないからここだと。出て行った人に直接アンケートを取って、なぜ出ていきましたって。何人かの回答でいいからそれ聞けば。分からない人が皆で考えても答えは出てこないから、聞くのが一番早いかと。観光の方でドラゴンアイがここ5・6年流行っているじゃないですか。八幡平市のてっぺんの駐車場500円なのに、ちょっと100mか200m下がった所にタダの駐車場がある。上に止めてくれる人はちゃんと500円払うからちゃんと収入になるかもしれないけど、せこい人は下に止めてそれで後は高級車乗っていけばしょうがないから上に止めなきゃなくなるけど、軽とかで行けば別に下でのいいやっていう気分にもなるだろうから。下でも300円取ればいいですよ。じゃな</p>

	<p>いとせっかく人がいっぱい行ってるのに中途半端な額しか収入が伸びなくて、自販機とか中の売店とかも下に止めた人はドラゴンアイで写真撮ってさっさと帰ってしまうっていう気がするので、そこはちょっと考えて下も人件費1人監視員置いたって300円取る気になればあの期間だけでも十分あてがあるかと。両方から取れるのだといくらい稼げるかと思ひます。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。非常にリアルなお話をいただきました。他いかがでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>私もこのご意見に凄ひ賛成で、観光で出入りして八幡平の魅力は大自然であるがために収益を非常に得にくい状態になっています。例えば山岳ガイドさんいるにしても、暮らしのガイドいるにしても、やっぱり無償提供している魅力が凄ひあると思うので、駐車場だけでも十分収益は取れると思ひますし、ここから先に行く場合は公園管理の都合上、人件費とか安全上の管理で費用が発生しますっていうのもとても大事だと思ひます。それは私が関わっている安比高原でのブナの森とか1000年続いている草原とか馬の放牧でもそうなんです。あとアンケートを取るとい話はそのとおりで、ただアンケートを取るのを各保育所にお願ひするとかそういうのもあるとは思ひんですけど、常に保育所忙しくて大変だと思ひるので、例えば1か月検診とか3か月検診でここに必ずお母さん方、お子さん連れて来るんですよ、その時にアンケートを取る人をどこかのご担当課で担当して、待ってる時間は結構あるので、その時にお母さんは手が離せないで聞き書きで書いていく方式だったりとか、何らかの形で必ずその世代の子育て世代の女性がここに来る日がありますので、その時に取られてはいかがかと、いち意見で御座います。</p>
<p>会長</p>	<p>ここで副会長に振りたいんですけど、私、大学生を見ていると、女子学生見ていると女子学生の方がもっとリアルで、別に大企業志向なんて無くて、特に岩手に来ている女子学生は一生働かなきゃいけないねと思ひているわけです。そうすると大きな企業じゃなくて働く環境さえあれば居たいという回答が随分聞こえてきます。で、地域志向型インターンシップで、田舎に入るインターンシップなんかやると、男子学生より女子学生が圧倒的に多くて、女子学生はリアルに思ひている。それが伝わってないんじゃないかと思ひます。それについて副会長いかがでしょうか。</p>
<p>副会長</p>	<p>私も全く同感で、会長からご紹介があったように、そういう機会を設けると非常に女子学生の方が積極的に参加しているというふうに感じています。結局何が問題なのかっていうところですが、よくよく考えてみる</p>

	<p>と、若い女性が正規雇用の機会につける割合が全体的に少ないんじゃないかと思う。成績も優秀意欲もあって、それでも就職活動を通年で見ていると、男子学生の方が先に内定をもらって行って、挨拶もろくに出来ないような、ただぼうっとして気の利かない男子学生からどんどん内定を取って行ってという。これが現状でして、さまざまな形で対策が図られているかと思うんですけど、女性の雇用に対して補助金を出すとか、例えば結婚とか同棲とかそういった理由で市外に流出してしまうってことが明らかであれば、例えばマスオさん型の2世代同居、3世代同居みたいな事例があればそこに積極的に補助していくとか。あと家賃の補助みたいなもの、世帯の中にいる女性の数に対して補助金を出すとか、かなり直接的な政策対策っていうのが待ったなしで求められている段階じゃないかと思われます。</p>
<p>会長</p>	<p>市の方でも何かお答えいただければありがたいのですが如何でしょうか。</p>
<p>副市長</p>	<p>お答えになるかどうかというところではありますが、先生仰るとおり女性の正規雇用が少ないというのは正に盛岡に比べればさらに八幡平市が少ないのはそのとおりで御座います。盛岡に通われてる方が20%以上八幡平市でおりますし、西根に限れば更に多い状況です。近くの人達を見ていると、男の方は通うんですけれども、女性は盛岡にそのまま引っ越す方が多い。これもたぶん近年の状況の中ではそういう傾向がさらに強まっているのかと感じているところもあるんですけど、それを考えれば仰られた家賃補助とかいろいろ金銭的な支援で食い止めれるのかということも考え方としてはあるのかなと今思って聞いたところで御座います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。恐らくこれから将来の八幡平市を作っていくためにはやはり若い世代または小さな子ども達がある程度いないと持続性が無ので、そこは何としても1丁目1番地としてお考えになっていただいて、その中の作戦をこれから我々も議論していきますし、市も一緒になって考えましょうということで。</p>
<p>委員</p>	<p>大更小学校のPTA会長で来ているんですが、八幡平市の杉の子子ども園園長をさせていただいておりまして、保育園の様子をみると八幡平市さんの支援が凄くいいので保育園に通われている保護者の方で1人っ子はほとんどいらっしゃらない。2人3人とお子さんを持たれて子育てされている方が多いので、出生率は下がっているかもしれませんが、いる子ども達のお母さん達は凄く頑張ってるらしいです。2人3人持てるということはやはりそれだけ支援がありますし、小学校に入ってから支</p>

<p>会長</p>	<p>援も八幡平市さんの方でかなり力を入れて下さってるので、小学校のPTAの代表としてもお話したいのが、今頑張っている人たちがもっと、八幡平市がいいな、ここに居たいなと思うようなところにぜひ。もちろん新規で呼んでくるのもそうなんですけども。私の感覚で言うと、市からの恩恵を受けているのがかなり沢山。仕事しながら子育てするという、1人の子が小学校に入るまでの6年ぐらい病気したりとか休まなきゃいけないのは、人生60年とか80年の子どもとの関わりの中ではほんの一瞬なので、そこはもちろん熱だったりどうしても見てもらわなきゃいけない時もあるんですけど、やっぱりお母さんお父さんの元で見てもらえるその期間というのも本当に限られた時期ですので、その時を大事にしたいと。一緒に仕事休まなきゃいけないですけど、それって凄く信頼関係作るには大事だなって保育者の考えもありますし、もちろん忙しい時は朝から晩まで見るんですが、居れる時には一緒に居て欲しいというところも。特に子どもは具合悪い時は出来るだけ誰か居てあげられるような、もちろん支援も保育園の方でするんですけども、会社の方でも八幡平市の会社のご理解があると。こちらから電話するんです会社の方に、でも皆さんだいたい繋いでいただけますし、誰かしらお迎えに来ていただける形はとってもらっている、そういうところが子育てしやすい環境にはなっていると思うんです。盛岡市とか滝沢市、まあ言い方はおかしいですけど凄く補助されてますし、担当課の皆さん凄く頑張ってるので、そこを私たちもお母さん達に毎回アピールしているんですけど、子育て頑張ってる人たちがだいたい支えられてるよっていうことについては発信していきたいと思ってます。あと小学生の子ども達が前も言ってたんですけど、もっと八幡平市で遊べる場所が、若しくは私達もですけど、八幡平市に居る私達が八幡平市で楽しい遊びをたくさんしていきたいと思って。それで楽しいよって言うのがSNSだったり情報を発信されることで来るんじゃないかと思って、私なりに八幡平市で遊んでるんです。これを機会にまた地元の私達自身が気付ける、もっと凄い八幡平市を見つけないかと思っていました。</p> <p>ありがとうございます。多分一番のポイントは、八幡平に住んでいる既に就職を目前に控えたお父さんお母さんの意識を変えないと、八幡平何も無いから出て行っていいよねっていうふうになってしまうだろうと思います。実は私もある自治体で同じような会議をやったとき、委員で出てきたたまたまそういう世代を持っているお母さんが、娘が結婚して家を建てたら、そのまちの方の、滝沢よりもその自治体の方の子育て環境の方が圧倒的に良かったと。だからそれを知っていれば何も滝沢に</p>
-----------	---

	<p>家を建てる必要は無かったと仰っていました。そういう地元にはしゃるそういうところにしっかり情報を伝える、同じ世代の方々にどう SNS で伝えていくか、そういうことを工夫するとせっかくこれだけ充実した生活をしているんだという事を 1 人でも多くの市民または元市民に分かっていただく、そういう取り組みが必要になってくるんだと思います。ぜひ人口減少解消のためにもお考えになっていただければありがたいと思ってました。ちょっとかなり時間が押してましたけれど、この議題 1 で何かまだご発言したい方いらっしゃいましたらぜひお願いしたいんですけども。金融機関の方々宜しいですか。それとも平館高校の副校長先生何かありますか。それではまだまだ発言をいただきたいところですが、時間がかなり押し迫ってまいりましたので、議事の 2 つ目の第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略指標及び対応する事務事業についてということで事務局からご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料 5 と 6 の説明をさせていただきます。資料 5 の方ですが皆様にお渡しております。第 2 期の計画の中の基本目標それから各プロジェクトの指標項目こちらの方を一覧にまとめて御座います。この中で 2 点ほど黄色で色を付けているところが御座いますけれども、当初目標値を、例えば認定農業者数 435 と設定いたしましたけれども、先に行われました市の本部会議において、基準値と目標値を比べた時に、ちょっと目標の設定が低すぎるのではないかという部分について、この目標値を少しあげるべきだという意見が御座いまして、こちら認定農業者数、それから市内の高等学校の生徒数、こちらの数値目標の見直しを今回したいと思ひまして今回色を付けて御座います。認定農業者数は 435 から 485、それから市内高等学校の生徒数は 150 から 180 に目標値の改訂をしたいと思ひます。</p>
会長	<p>(以下資料 5 及び 6 の説明)</p> <p>ありがとうございます御座いました。第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略で、指標の一部、2 つを変更したいということと、これを達成するための事業名それから予算が入っているけれど、一部は再掲も入っているのでそれを見ていきたいというお話だったと思います。平館高校の生徒数の関係が指標で入っておりますが、副校長先生何かありましたらどうぞ。</p>
委員	<p>本校を応援してもらってありがとうございます御座います。実はこの 180 人という数値は定員割れしているんですね。本来であれば学年 80 人ですので、普通科 40 人、家政科学科 40 人なので 240 人が定員ですので、設定は目標の 8 割ぐらいですか、ちょっと数値は低く設定してもらっているんですけども、県立高校に努める職員とする私としてやっぱり倍率は 1 倍を</p>

<p>会長</p>	<p>超えたいというのがあります。ちょっと目標値が現場の先生方とは違う。あくまでやっぱり地元の高校の倍率が1倍を超えるというのは我々教員としては目指したいところであります。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございます。こちらの方は少し現実的な数値だけれども、やはり本来は1倍を超えるような定員240名が本来の姿であるということで、目標値は240というのがこの裏側にあるんだろうと思います。そして180を達成したというのに関わらず240に向けてぜひ平館高校を盛り上げていただきたいと思います。他にないでしょうか。</p>
<p>会長</p>	<p>すいません、資料6の左側に番号をふっていますが、34番の平館高校の教育振興事業が37,000千円となっていますが、5,725千円に訂正をお願いします。</p> <p>ありがとうございます。事業を見ていただければ私が説明するまでもなくて、大きいものはキャトルセンターといいますか、肉牛等の施設を整備すると、それから大更駅前の整備、さらには先ほど議論になったような子育て環境を更に充実していくというところに予算が入っていると感じますので、皆様方の意見も含めて市の方でまた考えて入れていただいたんだろうとっております。ただ大事なのはこれで一旦決めたっていう事だけでは無く、来年度再来年度という形でよりよい形で総合戦略が達成するような施策というものを、市としては限られた財源なわけですからそれを皆さんからぜひいろんな形を出していただいて、この場が1つあると思いますけど、それに限らず委員としての自覚という大変失礼な言い方になりますけど、そういう形で気付いた事をぜひ行政の方々にお伝えするだったり、仲間の方で議論して、それを施策に取りあげてもらって進めていただきたいと思っています。何かご質問御座いますが。</p> <p>それでは議事の1・2は終わりましたということで、マイクは事務局に返します。</p>
<p>事務局</p>	<p>さまざまな貴重なご意見をいただきありがとうございます御座いました。それでは4のその他に入りますけども、平館高校さんからパンフレットの内容の説明がありますので、副校長さんお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>それでは私の方からお話させていただきます。平館高校の応援をしていただきまして、財政面でもありがとうございます御座います。代表して御礼申し上げます。私4月に平館高校に赴任いたしまして、この令和の時代にこんなに平和で明るい学校があるんだなと思ひまして、ちょっと幸せな気分になったんですね。ちょっと委員としての発言もしたいんですけど、皆さんの話を聞いていてやっぱり根幹にある</p>

のは八幡平市に住むことによる幸福感というか、幸せにならないと。皆さんの話を聞いていると、あれ欲しいこれ欲しいもあるかもしれませんが、その物を通じて人と人の繋がりが出来るから八幡平市に住みたくなっているんであろうと思ひまして、私達も平舘高校も入った生徒たちが幸せだなど、学校に入って良かったなど思えるように、私達も日々イメージアップとか生徒の関わりを進めているところです。この議論の中に直接平舘高校は出ませんが、八幡平市立高校ですので、その高校として核になって私達も地域に対して幸せを発信出来るような学校でありたいと思っています。パンフレットの学校案内を今年大きく変えまして、表紙を見た時に皆さん幸せになりませんか。うちの学校の生徒会長をはじめ、エース連中が自分達でポーズを決めて八光スタジオさんのプロのカメラマンに撮ってもらいました。平高のグラウンドから岩手山が見えるという。開いていただきますと、いろいろキャッチフレーズを考えたんですが、小さな学校で大きく伸びる。で、もう一回開いていただきますと、普通科と家政科学科と2つありまして、評議員さんとか地域の方から、盛岡に生徒が出て行くと。実際今年の市内中学生の入学率は25%です。そして直近では28年度は39%です。40%入ってくれるとだいたい200名が市内中学生ですから、80人で充足するんですよ。本来であれば我々の気概からすれば、40%の生徒が入ってくれる学校を目指したいということなんです。目標値は30%ですけどもそういうことです。そういうことも含めて中学校まわりをしています。このパンフを持ちながらです。その中で出てきたのが、盛岡一高、三高に行くならばそれはそうだろうと。だけど平高に入るとのメリットは何だろうという時、迷っても大丈夫。と、こういうフレーズにしまして、大丈夫だよ、中学校の時リーダーじゃなくてもリーダーになれるからと。その結果県内就職希望者が90%、八幡平市で働きたいという人、表紙に写っている男子は、盛岡の高校を希望していたんですけど、本校に来て家政科学科で学んで、八幡平市でレストランを経営したいという明確な目標を持って頑張っています。結局平高に来る生徒の多くが八幡平市に根付いて貢献していきたい、というふうに思ってもらえるような学校作りをしていきたい。これは恐らく今回話をしておられる、まち・ひと・しごと創生総合戦略の何か一つ担えるんじゃないかというふうにして、今学校作りを進めているところです。それから家政科学科については、このように特徴的な毎週のように何処かに行って地域の人に教わっています。安比のホテルに行ったらホテルの制服を借りてとか、或いはドラゴンアイに授業で行ってます。そんな事を中学生に話しています。それから制服も

	<p>3年前に一新しまして、有名なデザイナーにデザインしていただきまして、後ろから見るとセーラー服、前から見るとブレザーという非常に珍しい制服を作っています。スキー部相撲部については全国常連校で、スキー部は北上から生徒が入っております。今年の1年生は市外からなんと9名の生徒が入っております。河南中学からは相撲の凄い選手が入っていますし、そういった事も本校の売りなのかなというふうに思います。あとそれぞれコメントが入っているわけですが、紹介させていただいたのは、この平館高校を応援してもらっていることに私達も何とか応えたいと毎日思っています。そして地域の中学生から人気のある高校に、平高に行きたいと思える高校作りを必死になってやっていると、休み明けには市内に平高のポスターを作って貼りたいなと思っ</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。大変情熱のこもったお話をいただいて感銘を受けました。この関係でご質問あったらぜひ。</p>
<p>委員</p>	<p>私、商工会青年部代表で来ておりますので、最近の平館高校との取り組みをご説明させていただきたいと思っております。今度の7月29日ですかね、市内の商工会青年部事業者さんと平館高校さん2年生の方々と就職の説明会を今年から初めようということになっておりました。このパンフレットにも載っている生徒さんは去年商工会青年部で開催しました担い手育成事業にボランティアとして参加いただいて、あの生徒会長になったんだなと懐かしなと思いながらやっておりました。商工会青年部も部員が減少傾向にあるので、前は担い手育成事業で小学校とか中学生メインにターゲットを考えていたんですが、やっぱり就職に繋がる直接的な支援とか商工会青年部に入っているメリットをもうちょっと前面に打ち出していくのであれば、入っていることが就職に繋がる、平高の生徒さんと繋がって人と人が知り合えているということが、生徒と直接繋がれるというのが魅力なんじゃないかということで、それが就職に繋がればいいなと今活動していました。担い手も今年コロナの影響で子ども向けの事業が出来なかったのですが、平高さんとズームを使いながら密にならないように事業をしていきたいなと思っていましたので、今後ともぜひ宜しくお願いします。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。ぜひ高校生に働くという事を学ぶ、私達はインターンシップということで大学生はやりますけれど、ぜひそういうことを青年部の方々と一緒になってやれば、将来一回出て行ってもまた戻っ</p>

委員	<p>てくるとか、いろんな施策があると思うのでそういう繋がりをぜひ作っていただければありがたいなと思います。他いかがでしょうか。</p> <p>今回この平館高校の就職率ということで80%という指標が示されましたけれど、2年前に平館高校を卒業した女性が、2年間の専門学校を経て今年度当銀行に入行されました。彼女はそのまま平高では岩手銀行から就職が来ないだろうという事で、とにかく小さい頃から銀行員になりたいと夢を持って、一旦専門学校に自宅から通ったようですけども、夢を叶えたと、この間面接した時に言われました。例えばこの進学コースの中で彼女と同じような思いを持って希望を持って、例えば短大、専門学校でも取りますので、そういった場面で直接就職率が80%とはなっているものの、実際専門学校とか大学終わった後に県内でどれぐらい就職したのかとか、もし調べる事が出来るのであれば、ぜひ先生の方からこういう場でこういう就職率になっていますと、いうことをお知らせいただいてもいいのかなと思いました。</p>
会長 委員	<p>ありがとうございます。副校長先生何かコメントありますか。</p> <p>平館高校はこの何年か50%・50%で進学と就職という事です。今の3年生が70名いますので、35名が就職を希望している状況です。昨年度も35名が民間と公務員になっておりますので丁度半分です。35名の内の30名ちょっとが県内、盛岡か八幡平市を希望しています。その内の2〜3人は家庭の事情から就職進学と言いまして、東京駅構内のレストランで働いて短大に行くというようなのが何人かいますけれど、今年はコロナの関係で全て断られてしまいました。就職進学は出来ないという状況です。県外に行きたいという生徒はほとんどいませんので、そういう状況にあります。今岩銀の委員から話があったように、その通りなんですすが、力があるのに自信がなくて自分には出来ないと思うと、これは中学校の時のリーダー格が盛岡に行って、そうでない人の多くが平高に来て、自分達がリーダーを出来ないんじゃないか、ということがあってそういう考えをもっている人がたくさんいますが、今年に入って地域の人達との連携がたくさん出来るようになって、非常に前向きな生徒が増えておりますので、声かけてもらえればどんどんそういう金の卵が受けてくるのではないかと考えております。ありがとうございます。</p>
会長 事務局	<p>宜しいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>大変ありがとうございます。事務局の方で用意しているものは無いので、あとは皆さんよろしいでしょうか。</p> <p>長時間にわたって貴重なご意見大変ありがとうございます。以上を持ちまして、令和2年度第1回まち・ひと・しごと創生有識者会議を終了</p>

いたします。大変ありがとうございました。
